Japanese Association of Educational Psychology

教授・学習　1（601～610）

座長　小林利宣・松田伯彦

601　授業構成要素についての認知構造の変容測定・評価(1)　実践女子大学　倉島敬治

602　大学における教育心理学の授業効果（Ⅰ）
——ＳＤ尺度によるイメージ変化の検討——
広島大学　小林利宣

603　幼児教育専攻学生の Personal Teaching Theory（ＰＴＴ）に関する研究(1)
名古屋市立保育短期大学　後藤宗理

604　幼児教育専攻学生の Personal Teaching Theory（ＰＴＴ）に関する研究(2)
名古屋大学　吉田直子

605　教員養成に関する研究(3)
——現職校長の教員養成に関する提言——
佐賀大学　丹野真智俊

606　教師の経験差による教授行動の差異(3)
鳴門教育大学　松田伯彦

607　学業成績に関する教師の原因帰属について
茨木市立庄栄小学校　吉田明弘

608　学級内の原因帰属を変化させる教師の教授行動について　植草幼児教育専門学校　金子智栄子

609　（発表取消）

610　教師イメージについて
高崎経済大学　上岡国夫

質疑応答および討論の概要を，発表順に記述する。

601：松田より，WAT 簡略版の目的についての質問がなされ，倉島は，授業経験を分析し，その教育プログラムに生かし，教育心理学，教科教育法，あるいは教育実習の事前指導に生かすためで，そのプログラムの作製段階に来ている，と答えた。加えて，今まで現場の教師の調査をやっていないので行った，との回答があった。

602：倉島より，同時評定方式をとった意図についての質問がなされ，それに対して小林は，他の予備研究より，この方式は因子分析する場合に，対比が明確になることが明らかにされており，因子解釈するのに役立つと考えた，と回答した。石川（常葉学園大）よりの，被調査学生は１年次に心理学系の科目をどのくらい履習していたかの問に，小林は，教育学部生は３～４科目，理工系学部生はほとんど履習していないと回答した。さらに石川は，学部によって学生の教育心理学のイメージの異なることを指摘した。

603，604：都筑（大垣短大）より，教示の仕方，現実像という用語の問題および信念形成過程に関与する要因について質問があり，後藤は，特定の人物を指示せず実習での指導者を回想させたと回答した。吉田からは，現実の指導論をどのようにとらえたかは明確でなく，また形成要因については研究をはじめたばかりではっきりしない，との回答があった。小林は，各尺度の評定値の平均・SD はどの位かとたずね，梶田（名古屋大）は，判定した項目の反応分布の測定論的観点と実習指導の教育的観点を重視して研究を進めていく必要があると話した。松田は，実習中の教師が理想型で，自己の実習授業が現実型と考える方が妥当ではないかと示唆した。

605：井上（福教大）の，教師に対しても同じ調査をすべきでは，との問，および，倉島の，教育実習のプログラムを開発しようとしているのか，の質問に対し，いずれに対しても丹野は，それを行うことを考えていると答えた。

606：小林より，ベテラン教師の授業時間についての質問があり，松田より机間巡視等が少ない旨の回答があった。山内（同志社大）の方法論の問いに対し，独立変数が経験差である旨の回答があった。丹野の教授行動の差についての質問に対し，教師か児童のいずれが中心になるかの違いがみられた，と松田は回答した。

607：上地（兵教大）から，標本数が少ないのだから，特異反応は参考にとどめるべきだとの意見があり，このようなデーターについて慎重にしたいと回答があった。小林より男女差，経験差についての質問があり，著しい差はみられなかったと回答があった。

608：表１の合計頻度について，井上から質問があり，５Ｆは録音ミスがあったと金子より回答があった。山内より方法論について質問があり，社会科は児童の自由な発言が得られると考え，また小学低学年でも原因帰属が可能であるとの資料から，４年生をも対象にしたとの回答があった。

610：小林より方法論の質問があり，上岡は，教師と教科を同時評定させたのは問題があるだろうということ，「良い——悪い」の尺度で，悪い方向にいずれもなっているのは，標本の特異性だと思うと回答があった。井上より評定の回想記入方式に疑問が出された。

（小林利宣・松田伯彦）

NII-Electronic Library Service